

第2学年 社会科（歴史的分野）学習指導案

奈良教育大学附属中学校 教諭 丹後 七重

1. 学習単元 文化財の価値を考える E S D 実践 -身近な未指定文化財に想いを寄せて-
(A歴史との対話(2)「身近な地域の歴史」)

2. 単元の目標

- ・身近な地域や受け継がれてきた伝統・文化への関心を持ち、文化財の保存・活用のバランスに関する調べ学習やゲストティーチャーによる特別授業を通して、文化財が担う役割や価値、文化財継承に関わる課題を理解することができる。 (知識・技能)
- ・比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用し、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ・過去（文化財）を継承しつつ現在に生きる自身の視点から歴史に問いかけ、課題意識をもって学ぶことの大切さに気付く、未指定文化財の未来について自分なりの価値を見出し人々に発信している。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1)教材観

本単元は、中学校学習指導要領解説社会編 歴史的分野A歴史との対話(2)「身近な地域の歴史」に位置付けている。

指導者は、これまで出会った生徒から「受け継がれてきた伝統的な文化財は、私たちが後世に伝えていかなければならない」という声をよく耳にした。しかし、生徒が本心から考えて発言しているのか半信半疑だったのが正直な思いである。学校の先生が言うから、受け継がれてきたという義務感から、そのように答えている生徒もいるのではないだろうか。文化財を後世に伝えるために、具体的にどう行動しようと考えているのかが明らかでない生徒が多かったように思う。近年は各地の博物館等で文化財を収蔵する十分なスペースが確保できていないことが問題になっており、保存にかかる費用や価値観の変化など、文化財の継承には複雑な要素を多く含んだ課題がある。さらに、目の前の生徒を見てみると、「伝統的なもの」よりも「新しく生まれたもの」に興味があるのではないかと感じている。

文化財には、文化財保護法の対象になっている文化財と未指定の文化財がある。例えば、奈良教育大学の敷地内にある弾薬庫は、歴史を感じ価値がありそうに見えるが、実は未指定文化財である。しかも、実際に1つはすでに取り壊されているという事実がある。現在は、学生が主体の戦争遺構保存会による「知ってもらおう」活動が行われている。文化財を倉庫等で厳重に保存するだけでは、その価値を多くの人に伝えることができないのである。

文化財を保存し継承するためには、文化財にも「働いてもらう」必要がある。つまり、文化財を活用してその価値を広く伝え、保存にかかる費用を工面すること必要な時代である。奈良の秋の風物詩ともいえる正倉院展では、宝物を展示することでそれを実現している。令和6年度は再現模造品の展示にも取り組んでおられた。当時の材料・技術を用いる再現模造を製作する意義として、奈良国立博物館の学芸員は、次の3点を挙げられた。①損傷等の恐れがなく長期間展示ができることによって、宝物のすばらしさを広く伝えることができる、②自然災害や盗難で宝物が失われたとしても、再現模造品を通してその大切さを未来に伝えることができる、③最新の科学技術と職人の伝統技術の融合によって、伝統技術の継承・復活が可能となる。さらに、再現模造

の製作にあたって歴史研究が進むことも期待できると指導者は考える。

和歌山県では、3Dプリンター等で製造した複製品を寺社に置き、「本物」は博物館等で保存する「和歌山モデル」が行われている。信仰心に寄せて考えると複雑な思いにもなるが、もしもの場合に備えているという視点を用いれば納得もできる。奈良県では、県立大和民俗博物館が令和6年7月から資料整理及び老朽施設改修のために一時休館中である。奈良県知事は「奈良モデル」と称して、「明確なルールを決めたうえで、価値のあるものは残して、それ以外は廃棄することも検討せざるをえない」と述べている。収蔵スペースの問題があるのは承知しているが、同じ農機具であってもその一つ一つに少しずつつちがいがあり、それらから明らかになる歴史もあるのだということを博物館の学芸員が話している。現在は奈良大学の学生もボランティアとして収蔵品の3Dデータ化に取り組んでいる。

今は未指定であっても、今後その価値を見出され文化財保護法の対象になる可能性のある文化財が数多くある。しかし、何もしなければこのまま失われてしまう可能性も高いのではないだろうか。目まぐるしく変化する時代のなかで新しい文化に夢中になる中学生が、文化財の保存と活用のあり方を自分事化して考える授業を展開した。

(2) 生徒観

本学年は比較的落ち着いた授業に臨む生徒が多く、資料を読み取ったり活用したりしながら学習課題に意欲をもって取り組む姿が見られる。一方で、豊富な知識をもちながら、それらを活用し、自分の考えを他者に伝えることに自信を持つことのできない生徒が多いように思う。社会的事象を多面的・多角的にとらえて自身の意見を構築し、他者に的確に伝えられる表現力を育成する必要があると考える。

昨年度、本学年は春の奈良めぐり(総合的な学習の時間)で訪れた平城宮跡について、「現状保存」を望む奈良市民や奈良県民と「さらなる整備」を求める観光客との間で意見が異なることをふまえて、現在進められている平城宮跡の復元事業を今後も続けるべきか、文化財の価値を見出し判断する学習活動をしている。また、夏休み課題として、先人が自然災害からどのように文化財を守ってきたのかについて調べている。

本実践では、自らが生活する身近な地域の未指定文化財について、自分なりの価値を見出してポスター作成に取り組み、自分の意見(想い)を多くの人に発信することによって思考力・判断力・表現力の育成を図った。

(3) 指導観

本単元は、社会科と総合的な学習の時間の学習で得た学びを相互に活用した授業実践である。

春の奈良めぐり(総合的な学習の時間)では、法隆寺・藤ノ木古墳・斑鳩文化財活用センターを訪れ、これまで受け継がれてきた歴史を体感させている。

第1時では、学習単元「奈良時代・天平文化」での正倉院・正倉院宝物に関する既習事項を振り返りながら動画を視聴し、正倉院宝物について新たに分かったこと、もっと知りたいと思ったことを記述させる。そのうえで、夏休み課題レポート「1300年前の宝物と現代の私たちとのあいだにどのようなつながりがあるか」に取り組ませる。自分で問いを立てて調べ解決し、まとめる過程で生まれた疑問を整理させ、以降の学習につなげていく。

第2・3時では、「そもそも文化財とは何か」と問いかけ、文化財保護法の対象になっている文化財と未指定の文化財があることをクイズ形式で学習させる。そのうえで、文化財の保存にかかる費用面での課題を知り、文化財保護法の対象になっている文化財の保存と活用の事例を調べさせることによって、「文化財の活用」が全国で取り組まれていることを認識させる。

第4時では、ゲストティーチャーに奈良国立博物館学芸員をお招きして特別授業を行う。これまで正倉院宝物を受け継いできた方法や人々の思い、未来に向けた再現模造品の制作の意義などを知り、文化財の保存と活用のあり方について考えを深めさせる。

第5時では、「和歌山モデル」として複製資料を展示する施設の存在から、盗難や自然災害等による文化財の喪失に対応する必要性について考えさせる。「奈良モデル」を適用させる奈良県立民俗博物館では大学生もボランティアとして収蔵品の3Dデータ化に取り組んでいることを取り上げ、「あなたが未来に遺したい文化財は何か」身近な未指定文化財について、自分なりの価値を見出してCanvaによるポスター作成に取り組み、多くの人に自分の意見（思い）を発信させる。

（４）E S Dとの関連

○本学習で働かせるE S Dの視点（見方・考え方）

- ・ 有限性：文化財は今後も長く遺していきたいが、人々の思いや時代の変化とともに、その価値観や保存・修復のあり方が変わってしまうかもしれない。
- ・ 連携性：文化財を次の世代に伝えていくには、博物館・美術館や専門家、地域の人など、いろいろな人たちと力を合わせていく必要がある。
- ・ 責任性：先人が遺してきたものを私たちはどのような姿で次の世代に伝えていくべきか、まず考え、発信していく必要がある。

○本学習を通して育てたいE S Dの資質・能力

- ・ 批判的に考える力（Critical Thinking）
「文化財は遺すべきだ」という当たり前を疑い、文化財の価値を問い直すことで地域の良さを再認識し、それを発信する。
- ・ 未来像を予想して計画を立てる力
未指定の文化財が指定されるかもしれない未来を予測し、文化財の保存・修理の意義と活用とのバランスについて考える。
- ・ 進んで参加する態度
身近な地域の文化財をどのように守り次の世代へ伝えていくべきか、他地域の事例と比較しながら自ら課題解決に向かい、よりよい社会の実現に資する姿勢を身に付ける。

○本学習で変容を促すE S Dの価値観

- ・ 世代間の公正
先人の選択・判断が現在の文化財の姿であり、そのうえに私たちの生活があることから、その価値を次の世代へと伝えていきたい。
- ・ 人権・文化を尊重する（文化多様性の尊重）
中学生らしく新しい文化に注目するなかで、先人の価値観によって伝えられてきた有形物に価値を見出し、伝統文化も大切にしていきたい。

○達成が期待されるS D G s

- 4 質の高い教育をみんなに
- 12 つくる責任つかう責任
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

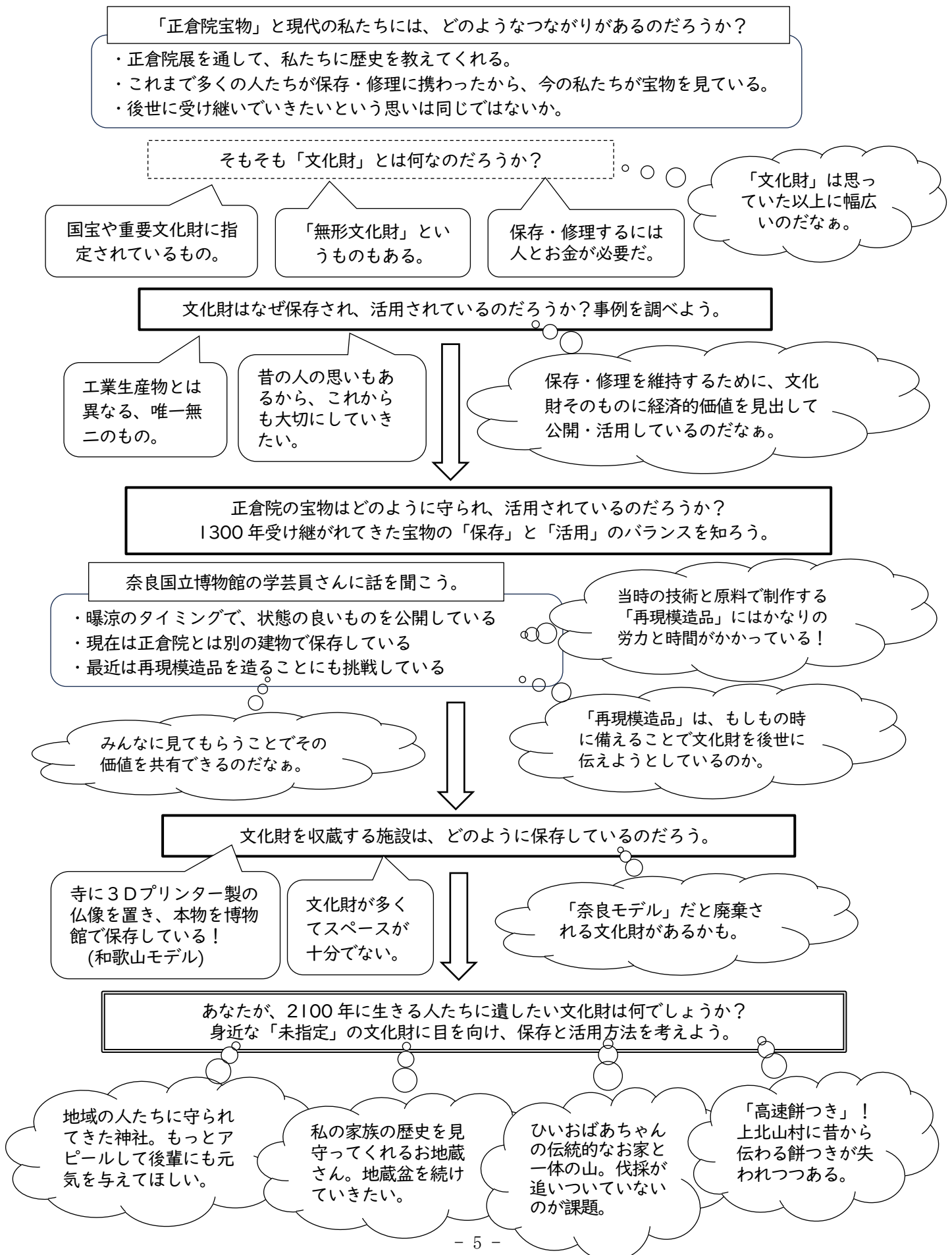
4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
身近な地域や受け継がれてきた伝統・文化への関心を持ち、文化財の保存・活用のバランスに関する調べ学習やゲストティーチャーによる特別授業を通して、文化財が担う役割やその価値、文化財継承に関わる課題を理解している。	比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用し、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	過去（文化財）を継承しつつ現在に生きる自身の視点から歴史に問いかけ、課題意識をもって学ぶことの大切に気付き、未指定文化財の未来について自分なりの価値を見出し人々に発信している。

5. 単元の指導計画（全5時間）

時	主な発問	主な学習活動	学習への支援	評価
1	☆「正倉院宝物」と現代の私たちには、どのようなつながりがあるのだろうか。	○正倉院展HPにある動画を視聴し、新たにわかったことやもっと知りたいと思ったことを書き出す。 ○テーマに沿った探究課題を設定し、夏休み期間に取り組む調べ学習を通して、新たな問いを立てる。	・学習単元「奈良時代・天平文化」での既習事項を思い出させた後、現代まで宝物が受け継がれてきたことに興味をもたせる。	(思/判/表) (主)
2・3	☆そもそも「文化財」とは何なのだろうか。 ☆文化財保存のための活用のあり方について、全国でどのような事例があるか、調べてみよう。	○「文化財」には、文化財保護法の対象になっているものとそうでないものがあることを知る。 ○文化財を保存するために必要な費用は、入場料・拝観料やクラウドファンディング等で捻出したり、知的資源を駆使したりして文化財を活用していることを知る。	・クイズ形式で「文化財」の定義を確認しながら、いわゆる未指定文化財の存在に気付かせる。 ・文化財を保存・修理するために、文化財そのものに経済的価値を見出して公開・活用することで後世に継承していこうとしていることについて、考えを深めさせる。	(知/技) (思/判/表) (主)
4	☆正倉院宝物が奇跡的に残ったのは、なぜなのだろうか。 ☆奈良国立博物館では、正倉院展でどのような保存と活用のバランスの工夫を行っているのだろうか。	○正倉院宝物が落雷や盗難・戦災の危機から守られてきた理由には、先人の思いや行動があったことを改めて知る。 ○正倉院展は曝涼のタイミングで状態の良い宝物を公開しており、最近は再現模造品の制作にも挑戦していることをふまえて、保存と活用のバランスについて自分なりに考える。	・宝物が受け継がれてきた理由として、正倉院の構造や唐櫃などの物質的な工夫だけでなく、自然災害等に立ち向かった人々の存在があったことにも意識を向けさせる。 ・当時の材料・技術で製造する再現模造は、最新の技術と伝統技術の融合によって成り立つとともに、歴史研究にも寄与し、自然災害等への備えにもつながることについて考えを深めさせる。	(知/技) (思/判/表)
5	☆「和歌山モデル」による文化財保存のあり方について、あなたはどのように考えるか。 ☆「奈良モデル」をふまえて、あなたが後世に残したいと考える未指定文化財は何か。	○3Dプリンター等で製造した像を神社に置き、本物を博物館で保存する「和歌山モデル」誕生の背景を知り、文化財保存のあり方について自分の考えをもつ。 ○文化財の価値を見極め廃棄も検討する「奈良モデル」誕生の背景を知り、自分が後世に残したいと考える「未指定文化財」を紹介するポスターを作成し、他者に発信する。	・自然災害による被害や盗難への備えとして、博物館等と連携して複製を祀る寺社があることに着目させ、文化財の保存のあり方について考えを深めさせる。 ・「未指定文化財」は将来的に文化財保護法の対象となる可能性があることを確認したうえで、自分なりの価値を見出し保存と活用に関する課題について考えさせる。	(知/技) (思/判/表) (主)

6. 単元構想図



7. 授業実践の実際、成果と課題

(1) 文化財の価値を考える

全5時間の本単元は、生徒に1ページポートフォリオを書かせることによって学習過程での自分の考えやその変容を読み取れるようにした。その主な項目は次のとおりである。

①あなたの学習の記録

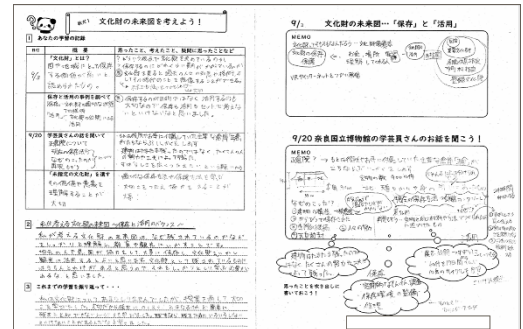
学んだこと、考えたこと、疑問に思ったことなどを自由に書く

②「私が考える文化財の未来図ー保存と活用のバランスー」

テーマに沿って考えを深め、自分の意見を書く

③これまでの学習を振り返って

学習のまとめとして、今思っていることや改めて考えたことを書く



Aさんの1ページポートフォリオの項目①あなたの学習の記録は、文化財に対する考えの変容が興味深い。

Aさん

9/5 文化財は人々の関わりが少なくなりつつあり、文化財そのものを知ることが大切だと思いました。文化財は関わりが少ない中、保存しながら活用され続けているのだと知り、私たちは文化財をもっと知って色々な人に伝えなければならないと感じました。文化財はどんな基準で認定されるのか気になりました。

10/23 身近にあるもので未指定の文化財になるものは、自分がこれから大切にしていけるべき、価値があると思ったものなので、人によって答えはちがうと思います。私は特に思い出のあるものを文化財に残したいと感じました。現在、奈良めぐりで伝統工芸品について調べているので、未指定の伝統工芸品とも結びつけて考えたいです。

第2時(9/5)の学習の記録で「文化財は関わりが少ない」と書いていたAさんは、第5時終了時(10/23)には「身近にあるもので未指定の文化財になるもの」と、文化財に対する視野が広がっているのではないかと思います。Aさんは未来に遺したい未指定文化財に、私の思い出の場所として家の近くにある公園を挙げている。総合的な学習の時間「1・2年生合同奈良めぐり」で伝統工芸品の継承について学習をしているAさんだからこそ、文化財とは何か、その価値について考えを深めることができたのかもしれない。ESDの視点「有限性」に関連して、人々の思いや時代の変化とともに価値観などが変わることに気付いてくれたのではないだろうか。

以降は、1ページポートフォリオの項目②③をもとに考察していく。

Bさん

【私が考える文化財の未来図ー保存と活用のバランスー】

私は文化財を保存する方法、活用する方法には良いものと悪いものがあると思いました。文化財を守りすぎるあまり、他の人の目に触れられないような厳重な方法だと保護している意味がなくなってしまうと考えた。活用方法では、活用の中で人の手に触れられすぎると壊れてしまうというリスクがあると考えた。だから、文化財を保存する中で定期的に点検・メンテナンスを行い、活用としてその文化財の価値を広めるようなワークショップが必要と考えた。

【これまでの学習を振り返って】

文化財と名前が付くから、どこか遠いような、身近にはないような感覚になるけれど、文化財は自分が暮らす県や市、町にあったりして意外と身近に感じることができた。身近にあると分かったからこそ、それがどんなものなのかどんな歴史があるのか知りたくなった。

Bさんは、大切な文化財の保存と活用のあり方について指摘する内容を書いており、保存する意義について考えていることがうかがえる。また、文化財は意外と身近にあることに気付いたようであり、その歴史にも関心を寄せている。育てたいESDの資質・能力「未来像を予想して計画を立てる力」、ESDの価値観「人権・文化を尊重する(文化の多様性)」はもちろんのこと、社会科の学習目標も達成できているのではないかと考えられる。

Cさん

【私が考える文化財の未来図ー保存と活用のバランスー】

文化財だからといって「遺すべきだ」「遺そう」守ろう」ばかり言うのではなく、ちゃんと価値を見極めることも大切だとわかりました。再現模造をすることで本物より迫力はないけど守ることができるので、自分だったら再現模造を（製作）して展示したいです。盗まれるのも嫌だし、イベントを行って本物は年に何回かしか見れないようにすると良いと考えました。

【これまでの学習を振り返って】

保存をすると良いという印象があったけど、ただ保存するだけでは違うとわかりました。作り方、材料が同じ再現模造は今後とても必要になってくる技術だと気付きました。正倉院はまさに活用と保存のバランスがとれていて、文化財の大切さは遺す必要があるから、未来に利用できるとわかりました。



(生徒作成ポスター)

Cさんは、未来に遺したい文化財に奈良教育大学敷地内の弾薬庫と通学途中の狭岡神社を挙げ、それぞれに保存状態や今後の活用方法をポスターに書き込んでいる。現在は1つしか遺されていない弾薬庫は、今後、再現模造の製作といった方法で遺せるのではないかと考えているようである。また、イベントなどを通して「知ってもらう」活動をしてはどうかと提案している。登校時に元気をもっているという狭岡神社は地域の人たちによって大切にされていることを述べたうえで、学校と住民が協力して守り、神社をアピールするといいいのではないかと提案している。ポートフォリオからも、有形物の価値についての記述や再現模造から文化財の活用のあり方・技術継承の問題について考えていることが読み取れる。ポスターとポートフォリオの2つから、ESDの資質・能力「批判的に考える力」が育まれているのではないかと思われ、またESDの視点「連携性」にも関連しているといえる。

Dさん

【私が考える文化財の未来図ー保存と活用のバランスー】

私はもし、このまま対策をせず進んでしまえば（未来は）暗いのかもしないかと考える。「文化財」を保存・活用するには若い人材が必要だ。しかし、現在は高齢化により若い人材が足りていない。そもそも知られていない文化財だって少なからずある。だから、私はもっと様々な文化財、未指定の文化財をアピールする活動（特に若手）が未来を明るくするきっかけになると思う。

【これまでの学習を振り返って】

いざ気になしてみないとわからない文化財。その文化財に興味を持たせてくれたきっかけになったと思った。様々な日本の「文化」が消えていっている中で全て消えていってはいけないうもの。だからこそ将来、私たちや子孫が生きる時代で文化財たちが、日本の文化がキラキラと輝いているすてきな未来であってほしいと思う。そして、そんな未来に投資したいとも思った。



(生徒作成ポスター)

未来に遺したい文化財に「地蔵・地蔵盆」を選んだDさんは、有形物だけでなく文化そのものを含めて考えたようである。主に近畿地方で行われる地蔵盆は、最近ではよく知らないという生徒も少なくない。Dさんにとって「地蔵には歴史があり思いがあり、だからこそみんなに知ってもらいたい」との価値があることを、作成したポスターを通して発信している。ポートフォリオには投資という言葉が出てきているが、おそらく拝観料や入場料、クラウドファンディングなどで資金を集めている事例を授業で扱ったことが影響しているものと思われる。Dさん自身ができる方法で文化財の未来を明るくしたいとの思いが伝わってくる記述である。ESDで働かせる視点「責任性」において、先人が遺してきたものをどのような姿で次の世代に伝えていくべきか、社会科の学習内容もふまえてよく考えていると読み取れる。

次ページのEさんは、伝統的なつくりである曾祖母の家と先祖代々受け継いできた一帯の山を、未来に遺したい未指定文化財に選んだ。自然のすばらしさや歴史の授業で勉強するような文化や道具があり、何よりも家族の

思い出もつまった大切な場所だという。山の恵みにも触れたうえで、住居・森林の手入れやその費用が課題であると書いている。ポートフォリオには、先人から受け継いだものを私たちがどのように受け継いでいくのか、先人の想いに着目した記述が見られる。先人の選択・判断が現在の文化財の姿であることをよく理解しており、まさにE S Dの育てたい価値観「世代間の公正」に合致していると考えたい。また、3Dプリンターやデジタル展示・動画についても書いていることから、専門家や博物館などとの「連携性」といった見方・考え方も働かせているのではないだろうか。

Eさん

【私が考える文化財の未来図ー保存と活用のバランスー】

私が考える文化財の未来図で1番大切にしたいのは「今、遺されている文化財（未指定も含めて）1つ1つ全て忘れられることを起こさない」ということです。10/23の学習で、全て保管しようとする保存環境が悪くなってしまうと学びました。そこで、パソコンにデータを取り込み、デジタル展示や動画にまとめて後世へ伝えれば、物がなくなってしまうと忘れられてしまうことはありませんし、保管場所にも困りません。また、盗難を防ぐ3Dプリンターを使った展示を行っているのが、私が考える未来図です。

【これまでの学習を振り返って】

今、たくさんの文化財が遺っているのは、先人たちがその価値に気付き、後世へ遺していくべきものだ判断した証だと考えます。そのようにいろんな物、1つ1つにはたくさんの人の想いがこめられていて、今まで遺されてきたんだと思います。だから、その先人たちの想いを、努力をこれからの未来へつなげていくのが私たちのすべきことだと考えます。私はこの学習で終わらずに、これをきっかけとして文化財について考えたり発信していこうと思いました。



(生徒作成ポスター)

*一部加工

(2) 今後の展望 ー成果と課題ー

本実践は、昨年度の「文化財の価値・役割を考える」の反省をふまえたものである。

昨年度の授業実践と比較すると、E S Dで大切にしたい「人との出会い」の場面は少しだが設定することができた。奈良国立博物館学芸員をゲストティーチャーに招いた特別授業を学習過程に組み込んだことによって、「文化財のことについて、ここまで深く考えたのは初めてだった」との生徒の感想からも非常に有意義な学習になったと思われる。また、実際に正倉院展に足を運んだ生徒の感想を奈良国立博物館にフィードバックすることによって、学校と博物館の「連携性」も生まれたのではないかと期待したい。

全国の文化財の保存と活用のバランスの事例を調査したうえで後世に遺したい未指定文化財をポスターで発信する本実践は、ただ単に「遺していかなければならない」ではなく、その保存のあり方と活用における課題を考える必要がある。育てたいE S Dの資質・能力である「進んで参加する態度」、身近な地域の文化財をどのように守り次世代へ伝えていくべきか、他地域の事例と比較しながら自ら課題解決に向かい、よりよい社会の実現に資する姿勢を身に付けることができたのではないかと考えている。

課題としては、生徒が作成したポスターを指導者である私自身が地域社会に還元できていないことである。本校の校区は広く、生徒の身近な地域が本校の所在地から離れていることもある。校内での共有・発信はしたものの、生徒の取り組みをどのように校外に広げて文化財を保存するきっかけにしていけるか、今後考えていきたい。

本実践は総合的な学習の時間での学習とのつながりを重視し、長期間にわたって取り組んだ。社会科教育のフィールドは広い。今後も教科横断的な学習を続けていくなかで、誰もが幸福感を感じられる社会の実現をめざして、自ら課題を見つけ解決に向かう資質・能力が育まれることを期待したい。



現在の学年終了時に目指す姿

身近な未指定文化財に着目し、自分なりの価値を見出して後世に遺したい思いを発信することで、文化財の保存・活用のあり方について継続的に自ら課題を見つけ追究・解決しようとしている。

総合的な学習の時間「奈良めぐり」

法隆寺・藤ノ木古墳、斑鳩文化財活用センターを訪れ、受け継がれてきた歴史・人々の思いを体感するとともに、技術の継承や文化財の活用にも関心をもたせる。

飛鳥時代の建物が今も残っているなんてすごい。

一度火災に遭っても再建したのはなぜなのだろう。

総合的な学習の時間「臨海実習」

漁業にまつわる道具や木造船から海とともに生きる人々の暮らしを知り、展示物（収蔵品）の保存への思いや保存のあり方に関心をもたせる。

津波被害を想定してこの場所に博物館を建てたのか。

木造船の数が多すぎる。でも一つ一つ異なるから保存したい。

中学2年社会科「歴史との対話・身近な地域の歴史」

○主に養いたい ESD の資質・能力

・批判的に考える力 (Critical Thinking)

「文化財は遺すべきだ」という当たり前を疑い、文化財の価値を問い直すことで地域の良さを再認識し、それを発信する。

・未来像を予想して計画を立てる力

未指定の文化財が指定されるかもしれない未来を予測し、文化財の保存・修理の意義と活用とのバランスについて考える。

・進んで参加する態度

身近な地域の文化財をどのように守り次の世代へ伝えていくべきか、他地域の事例と比較しながら自ら課題解決に向かい、よりよい社会の実現に資する姿勢を身に付ける。

○主に育てたい ESD の価値観

・世代間の公正

先人の選択・判断が現在の文化財の姿であり、そのうえに私たちの生活があることから、その価値を次の世代へと伝えていきたい。

・人権・文化を尊重する (文化多様性の尊重)

中学生らしく新しい文化に注目するなかで、先人の価値観によって伝えられてきた有形物に価値を見出し、伝統文化も大切にしていきたい。

ユネスコクラブ

「奈文研バックヤードツアー」

文化財の発掘・保存事業の現場を体感させる。

社会科「各時代に栄えた文化」

社会の変化とともに新たな文化が生まれ、当時の人々の暮らしを豊かにしていたことを学習する。

正倉院宝物が落雷や盗難にあったなんて。

再現模造品の製作には時間がかかるが、文化財の活用や歴史の解明につながるのだから。

社会科「正倉院宝物と私たち」

奈良国立博物館学芸員をゲストティーチャーにお招きし、宝物の保存に関する工夫や技術、再現模造技術を用いた活用のあり方について知り、文化財の保存と活用のバランスについて考えさせる。

総合的な学習の時間

「1・2年生合同奈良めぐり」

奈良市を中心とした7つのコースを設定し、地域につながる人や場所との交流を通して多様な考え方に気づき、物事を多角的に捉え、さまざまな視点から考察する力を身に付けさせる。

伝統的工芸品であっても、後継者不足などで継承の危機に陥っている。

奈良の文化財は、訪れる人々を楽しませている。未来の奈良は…？